



はとの子だより

No.8 令和6年12月9日(月)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

3つの大きな山を越えて

～はとの子学習発表会・150周年記念式典・公開研究協議会Ⅱ～

11月から12月にかけて、3つの大きな学校行事を立て続けに開催しました。

11月9日(土)のはとの子学習発表会、16日(土)の創立150周年記念はとの子式典、12月2日(月)の公開研究協議会Ⅱです。

はとの子学習発表会では、創立150周年を期に、もう一度全校の絆を確かなものにするべく全校合唱に取り組みました。曲が決まってからの数か月間、各学年が毎日のように練習を積み重ね、基礎固めに励んでいました。その間に行われた全体練習でも、全体の指導を担当する音楽専科の大山先生から各パートの課題が指摘されました。パート担当の学年練習では、大山先生も入って克服に向けて練習を重ねました。



6年生のバランスのとれたハーモニーと5年生の力強く真摯な歌声に、低・中学年の子どもたちが聞き惚れる姿、低・中学年の体いっぱい表現する姿。各学年の声と姿勢が互いを感化し合う様子が見て取れました。そして、どの学年も、みんなの歌をよりよいものにするために…という気持ちで歌う気持ちが前面に表れていました。

各学年の発表に、その効果が表れたのは言うまでもありません。1年生の躍動感溢れる「おむすびころりん」、2年生のカラフルでアイデア満載の「スイミー」、3年生の豊かな身体表現による「通町商店街」紹介、4年生のダイナミックで緻密な構成の「多様な共生社会」、5年生のノリと迫力の「民謡」、6年生の繊細でたおやかな「秋田の子ら」。これぞはとの子というべき多様な魅力で満たされた1日でした。



創立150周年記念式典は、3部構成で行いました。第1部は式典部、第2部は記念映画の上映、第3部は卒業生による講演です。



第1部の式典部では、その厳かな雰囲気、全校の子どもたちの表情もいつになく引き締まっていました。佐々木雅子校長、秋田大学の南谷佳弘学長のご挨拶からは、本校を巣立った諸先輩方の活躍と、将来を担うはとの子たちへの期待が感じられました。その代表として挨拶をした6年生の渡辺弦さんは、次のように話していました。

「いつも、どんな時もよりよいものを目指すこと。自分たちでやりとげたいことを決め、そのゴールに向かって、みんな協力すること。それが学校教育目標である「自律」の姿になっていきます。時の流れの中で変化もありましたが、大事にしてきたものは、はとの子の先輩方と同じなのではないかと思います。」

150年間培ってきた本校の強みがしっかりと息づいている言葉だと感じました。



第2部の記念映画「はとの子の学校」上映では、ユーモア溢れるドラマパートに会場が沸き、卒業生や元教員のインタビュー内容に歴史の重みを実感する時間を過ごしました。冒頭と終末を飾るドラマパートでは、インタビューを中心としたドキュメンタリーパートとシームレスにつながるストーリーづくりに苦心してきた6年生の姿を見てきただけに、その完成度の高さにはとの子の底力を感じ

ました。構成の甘さやストーリーの矛盾点などについて様々な視点から指摘し、「ガチンコ」で向き合い助言してくださった株式会社アウトクロップの皆さんからのご支援も大きな助けとなりました。式典にご参席し、上映後に制作メンバーと対談してくださった代表の栗原エミルさんからも、大いにお褒めの言葉をいただいたことすらありません。



第3部の講演では、本校を平成4年度に卒業された集英社ジャンプ・コミック出版編集部副編集長の服部ジャンバティスト哲さんから「編集者ってどんな仕事?～ヒットする漫画のひみつ～」と題してご講演いただきました。服部さんは、週刊少年ジャンプ編集部にて在職時代に担当した漫画「ONE PIECE」や「NARUTO」、子ども時代に大好きだった漫画「スラムダンク」や「ドラゴンボール」の話題を中心



に、編集者としての楽しさや苦勞、小学生のうちに心掛けておくべきことなど、たくさんの心に残る話をしてくださいました。

後日談を一つ紹介します。服部さんの話に感銘を受けたある4年生が、家に帰って集英社の住所を調べ、服部さん宛に質問を書いた手紙を郵送しました。数日して、服部さんから学校へお返事のデータが添付されたメールが届きました。その内容がとてもすばらしかったので一部を引用して紹介します。

「編集者は自分一人では何も作れないし何も実現できません。色んな人の力を借りて漫画や本を作っていきます。ただ、なんのアイデアや想像もなければなにも作ってもらえないので、頭の中で色んな想像をしておくことが大切だと思います。漫画家は想像力がものすごいので、とても敵いませんが一緒に働くうえでやはり編集者も想像力をもっている方が仕事はきっとやりやすいですし、想像することはそれ自体が楽しいことだったりもするので、想像力をもつようにしたら良いと思います。」

式典のあとに開催された記念祝賀会に出席された服部さんは、「自分には特別な才能はありません。でも、一生懸命にいろいろなことに興味をもって頑張って勉強していけば、才能の塊のような漫画家と世界を楽しませるものを創造するお手伝いはすることができます」と話していました。子どもたちに是非伝えてほしいとのことでしたので、この場を借りてお伝えした次第です。

なお、服部さんからは、ご自身が編集者として手掛けたり、特に影響を受けたりした漫画百数十冊を寄贈していただきました。現在、メディアセンターに「服部文庫」として常設し、自由に手にとりて読めるようにしています。



大きな山の最後を飾る公開研究協議会Ⅱでは、7つの授業提案と協議会、パネルディスカッションを行いました。



6年国語で提案した「作家の時間」は、本校が今年度から上学年で教育課程に位置付けた新たな試みです。何を書くか、どの文種で書くか、どの程度のペースで書くかなどについて自分で決め、計画を立て、自らの責任で進めていく学習です。

他に提示した算数・理科・図工・体育・総合・外国語でも、教材や教具、指導方法、学習過程などに、学校教育目標「自律」を具現するための様々な仕掛けが施されていました。どれも教科書にはないけれど、教科書以上に力が付く授業です。

10月の公開研Ⅰの倍近い参加者が集まり、そのうちの3分の2が県外からいらした方々ということから、本校の取組が全国的に注目されていることがうかがえました。その

中でも特に魅力となっているのが、のびのびと学ぶ子どもたちの姿です。

例えば6年理科では、竿秤を作る活動に取り組んだのですが、それは先人の発明を追体験する学びです。正確な竿秤を作るためには、様々な条件制御をしながら先人がしたであろう試行錯誤を子ども自身が味わうこととなります。その過程で、様々な科学的原理を体感し、獲得していくことに、この学習の醍醐味があります。こうした学習構想は「真正の学び」と言われ、子どもが知識や技能、思考力や判断力等を獲得していく上で特に推奨されています。子どもたちは、大人の想定を遥かに越えて様々な試みをしていました。「もしかすると重り一つにつき4cm刻みで目盛りが進むのかもしれない」などと仮説を立てながら学ぶさまは、まるで小さな科学者でした。こうした姿が、参観者の方々の心に強く響くのだと思います。

多くの方々に見ていただき、質問されたり認められたりする経験を通して、また一段と自らのよさや強みを自覚し、成長する機会となった公開研究協議会でした。

わずか1か月ほどの間に、山のようにそびえる大きな学校行事が3つもありましたが、子どもたちはどれも楽しみながら乗り越えてくれたようでした。どの行事でも駐車場の誘導や来客の接待、写真記録、受付、そしてもちろん温かいまなざしでのご参観などを通してご協力と応援をしてくださった保護者の皆様のおかげです。改めて感謝申し上げます。

合唱部が快挙達成!~全国合唱コンクール金賞~

11月17日に福島県郡山市のけんしん郡山文化センターで開催された第77回全日本合唱コンクール小学生部門で、本校の合唱部は県勢初となる金賞に輝きました。全国規模の合唱コンクールで秋田県代表が金賞を受賞したのは、約半世紀ぶりとのことでした。これまでの練習の成果を遺憾なく発揮し、きめ細かで緻密な音づくりを積み重ねてきた成果を、大きな音楽ホールいっぱい響かせてきた合唱部の皆さん、本当におめでとうございます。今年度の合唱部は、例年のコンクール出場以外にも、近隣の学校や幼児保育施設、老人介護施設などでのコンサート活動など、地域に愛される取組を展開してきました。そうした場を通して、歌うことへの愛着や情熱を、聴き手となってくれた方々と分かち合ってきたことが、今回の受賞につながったのではなかったでしょうか。これからもますますの活躍を期待しています。



3年部に新たに安藤のどか先生が着任されました



10月末から、3年部に新たに先生をお迎えしました。理科の専科を担当して下さっている安藤のどか先生です。安藤先生は、現在、秋田大学大学院の2年生で、来春から県外の中学校で教員生活をスタートすることが決まっています。3年生に、楽しく理科の授業をして下さっています。どうぞよろしくお願ひします。